

資料

1. 少子化の動向

(1) 人口動態

最近5年間の人口動態は、平成13年までは増加傾向にありましたが、平成14年からは自然増の減少と大幅な社会減により、人口減に転じています。

図表-1. 人口動態

(単位：人、%)

	自然動態		社会動態		人口動態	
	増加数	増加率	増加数	増加率	増加数	増加率
平成11年	246	0.59	87	0.21	333	0.80
平成12年	275	0.65	18	0.04	293	0.70
平成13年	308	0.72	210	0.49	518	1.22
平成14年	168	0.39	-191	-0.44	-23	-0.05
平成15年	217	0.50	-408	-0.95	-191	-0.44

(資料：青森県人口移動統計調査)

(2) 婚姻・出産の動向

婚姻・離婚

本市の最近5年間においては、婚姻率、離婚率ともに増加傾向で推移していますが、婚姻については平成15年に大きく減少しています。

全国・県平均と比較すると、婚姻率は全国・県平均より大幅に高くなっており、離婚率も全国・県平均より高い数値となっています。

図表-2. 婚姻数(率)・離婚数(率)の推移

(単位：件、%)

	H11年 (1999)	H12年 (2000)	H13年 (2001)	H14年 (2002)	H15年 (2003)	青森県 (2003)	全国 (2002)
婚姻件数	341	354	366	373	315	-	-
婚姻率	8.1	8.3	8.5	8.7	7.3	4.9	5.9
離婚件数	94	114	111	118	120	-	-
離婚率	2.2	2.7	2.6	2.7	2.8	2.5	2.3

婚姻(離婚)率：人口千人当たりの婚姻(離婚)の件数

出生・死亡

最近 5 年間を見ると、出生数は年によって増減があるものの、総体として減少傾向で推移しています。死亡数は 280 人前後で推移しますが、平成 14 年には大きく増加しています。

図表-3. 出生・死亡数の推移

(単位：人)

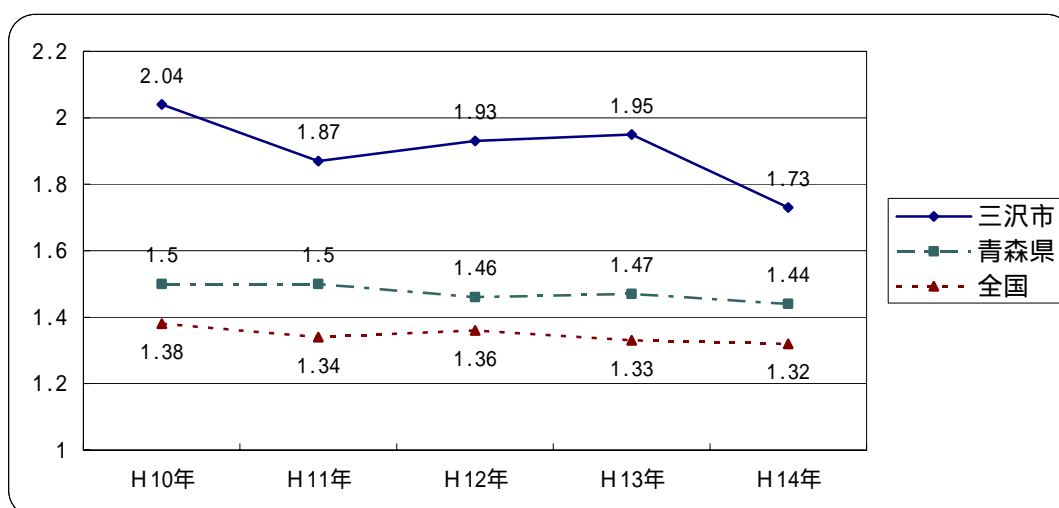
	H11年 (1999)	H12年 (2000)	H13年 (2001)	H14年 (2002)	H15年 (2003)	増加率 (H11-15)	
出生数	538	560	574	507	514	-4.7	
死亡数	296	288	275	343	289	-2.4	
乳児死亡数	2	4	1	1	-	-	
新生児死亡数	2	3	1	-	-	-	
死産数	自然死産数	5	9	7	14	10	50.0
	人工死産数	10	10	9	4	13	23.1
	計	15	19	16	18	23	34.8

(資料：人口動態調査)

合計特殊出生率

合計特殊出生率は、全国・県平均と比較して高くなっています。しかし、ここ 5 年間で急速に減少していることが分ります。

図表-4. 合計特殊出生率の推移



2. 三沢市の子育て環境

(1) 保育所（園）

本市には公立の保育所が2か所、私立の保育園が15か所あります。延長保育・休日保育・一時保育・障害児受入れ・病後時保育・地域子育て支援センターの併設については下記の通りとなっています。

ここ5年間の入所者数は定員1,030人に対し、1,200前後で推移しています。

図表-5. 保育所（園）一覧

	園名	保育時間 (平日)	保育時間 (土)	定員	延長 保育	休日 保育	一時 保育	障害 児	病後 児	地域 子育て 支援 C
公 立	市立中央保育所	7:00～19:00	7:00～19:00	90						
	市立大津保育所	7:30～18:00	7:30～18:00	45						
私 立	三川目保育所	7:30～17:30	7:30～17:30	30						
	淋代保育所	7:30～17:30	7:30～17:30	30						
	チャリイ第一保育所	7:00～18:00	7:00～18:00	60						
	古間木保育園	7:30～18:30	7:30～18:30	45						
	浜三沢保育所	7:00～19:00	7:00～19:00	60						
	鹿中保育園	7:30～17:30	7:30～17:30	30						
	チャリイ第二保育所	7:00～18:00	7:00～18:00	60						
	春日台保育園	7:00～19:00	7:00～19:00	120						
	五川目保育園	7:30～17:30	7:30～17:30	20						
	岡三沢保育園	7:15～19:00	7:15～19:00	90						
	三沢乳児保育所	7:00～18:00	7:00～18:00	60						
	松園保育園	7:00～19:00	7:00～19:00	120						
	美野原保育園	7:00～18:00	7:00～18:00	60						
平畑保育園	7:00～19:00	7:00～19:00	60							
	三沢愛子保育園	7:30～18:00	7:30～18:00	50						

図表-6. 保育所（園）入所者数の推移（各年3月1日現在）

	平成11年 (1999)	平成12年 (2000)	平成13年 (2001)	平成14年 (2002)	平成15年 (2003)	増減率 (H11-15)
0歳児	136	149	155	151	113	-20.4
1歳児	169	200	221	196	187	9.6
2歳児	229	207	231	223	225	-1.8
3歳児	221	228	214	235	228	3.1
4歳児	236	220	231	213	233	-1.3
5歳児以上	200	235	233	230	224	10.7
計	1,191	1,239	1,285	1,250	1,210	1.6

(資料：家庭福祉課調べ)

(2) 医療体制

市内の医療施設・医療従事者の状況は下記のとおりとなります。ここ数年は、医療従事者は増加傾向にありますが、床数が減少してきています。救急医療体制については在宅当番医制、病院群輪番制及び医療救護活動体制により対応しています。

図表-7. 医療施設・医療従事者の状況（各年12月31日現在）

		H10年	H11年	H12年	H13年	H14年	増減率 (H10-14)
病院	施設数	4	4	4			
	床数	665	579	551			
診療所	施設数	28	28	29			
	床数	138	129	129			
歯科診療所		10	10	11			
医師	医師	54	-	58			
	（小児科医）						
	（産婦人科医）						
	歯科医師	19	-	18			
保健師		15	-	17			
助産師		16	-	13			
看護師	看護師	163	-	185			
	准看護師	174	-	176			
薬剤師		42	-	43			

（資料：三沢市統計書）

(3) 教育環境

幼稚園

市内には幼稚園が4か所あり、平成15年5月現在で3歳から5歳まで663人が入園しています。

図表-8. 幼稚園の状況（平成15年度）

園数		4か所
園児数	（総数）	663人
	3歳	161人
	4歳	249人
	5歳	253人
修了者数		224人

（資料：学校基本調査）

小・中学校

市内には小学校が 11 校、中学校が 5 校あり、平成 15 年 5 月現在で小学校 3,125 人、中学校 1,485 人の児童・生徒が通っています。1 学級あたりの児童・生徒数は、小学校 25.2 人、中学校 28.0 人で、県と比較すると、小学校は 1 学級あたり 2 人程度多く、中学校ではほぼ同人数となっていますが、全国と比べると小学校で 1 人、中学校で 3 人程度それぞれ少なくなっています。

図表-9. 小・中学校の状況（平成 15 年度）

		小学校	中学校
学校数		11 校	5 校
学級数	（総計）	124 学級	53 学級
	うち特別学級	8 学級	5 学級
児童・生徒数	（総計）	3,125 人	1,485 人
	うち特別学級	24 人	7 人
教員数		188 人	108 人
1 学級当たり生徒数		25.2 人	28.0 人
（青森県）		23.0 人	28.2 人
（全国）		26.5 人	31.3 人

（資料：学校基本調査）

（４）地域活動団体等

子育てサークル

本市では、自主的に活動する子育てサークルが 10 団体あり、親同士の交流や情報交換の場として、親子や子ども同士の遊びの場として集い、活動しています。

図表-10. 本市で活動する子育てサークル（平成 16 年 3 月現在）

団体名	活動概要	会員数
どんぐりころころ	親子、親同士、子供同士のふれあい・交流。	大 18・小 22
キッズチャレンジ	サークル活動を通じての育児情報交換。	大 6・小 6
夕やけうさちゃん	子どもを自由に遊ばせる。親の気分転換。	15 組
プチメイト	困った事やストレス発散の話し合える場。	大 17・小 19
森のくまさん	親子の交流・ともだち作り、イベント参加。	大 10・小 12
ぴよぴよぴよちゃん	子供・お母さん同士の情報交換・交流の場。	大 11・小 14
にょろちゃんず	成長に応じた遊び、親の情報交換・問題解決。	19 組 25 名
スノーマン	子供同士のふれあい、親同士の情報交換。	14 組
ろけっと	ストレス発散・友だちづくり。	11 名
かっぱまキッズ	友だちづくり・子育ての情報交換。	大 13・小 15

子育てメイト

子育てメイトは、子どもたちを健やかに生み育てる環境づくりの一環として、青森県知事から委嘱を受け、妊婦さんや子育て中のお母さん、お父さん方の身近な相談相手として、子育ての悩みや不安について相談に応じたり、子育てに関する情報を提供したりしています。

あしゅまる隊

青森県では、子どもと一緒に遊んだり、体験の指導をしてくれる方を「あしゅまる隊」として募集し、「子どもの豊かな心を育むあしゅまる運動」として、子どもたちが遊びや仲間づくり、自然体験や科学体験、スポーツや各種の文化・芸術活動を通して豊かな心を育てていくための取り組みを推進しています。現在三沢市では、約30名の方があしゅまる隊として活動しています。

3. 子ども・子育ての状況（アンケート調査結果より）

（1）子どもの家庭・地域でのようす

普段家族と過ごす子どもが多く、近隣社会の希薄化と同様、子どもにおいても近所の友だちや大人等と遊んだりすることが少なくなり、地域のつながりにおいてはおもに学校が中心であることがわかります。

【アンケート調査からみる特徴】

1日3時間以上テレビやビデオを見ている子どもが2割弱。

家庭での会話は学校や友だちの話題が多く、また、父親と母親では会話の内容が違う。

普段、家族と過ごし、遊びも家の中で遊ぶことが多く、公園等で友だちと遊んだり、近所の大人と一緒に遊んだりすることは少ない。

地域活動は、子ども会・町内会や学校の部活動・クラブ活動が中心。小学生ではボランティア活動やホームステイ、中高生ではアルバイトへの参加意向が高い。

小学生時期には乳幼児とふれあう機会は多いが、中学生になると大幅に減る。

中高生は主に勉強や成績、将来の進路等について悩んでおり、相談相手は友だちが最も多いが、3人に1人が誰にも悩みを相談しない（できない）でいる。

（2）子育ての実態と意識

保育サービスの利用

未就学児の8割以上が保育サービスを利用しており、そのほとんどが「保育所（園）」か「幼稚園」を利用しています。保育所・幼稚園の保育内容については全般的に満足度が高いものの、利用者間のつながりを求める声が見られます。

子どもが病気のとき、あるいは保護者が病気や緊急時の保育サービス利用はほとんどなく、仕事を休むまたは親族・知人に預けるなどして対応しており、ファミリー・サポート・センターの認知度はあるものの利用するまでには至っていません。

また、リフレッシュのための保育サービス利用も半数近くが希望しています。

【アンケート調査からみる特徴】

現在の保育内容にはおおむね満足。「利用者間のネットワークづくり」が今後の課題。

保育サービスの利用希望者の多くが、保育所の利用を希望している。

土曜日で6割、日曜・祝日で3割の保育サービス希望がある。

放課後児童クラブの利用状況に比べ、利用希望は高く、とくに平日の利用希望が3割を越える。

子どもが病気の時は、親族や知人に預けるほうが比較的容易ではあるが、より困難でも親が仕事を休んで対応しており、特に未就学児ではその割合が高い

保護者の緊急の用事等で子どもの面倒をみられない場合、子どもを親族・知人に預けて対応している人が多い。

泊りがけで預ける場合は9割以上が親族・知人に預けている。

育児者のリフレッシュへの希望は高く、保育所等でのサービスが期待されている。

「母親・妊婦・両親・育児学級」や「児童館・児童センター」の認知度・利用度が高い。

「園庭開放」や「児童館・児童センター」等、親や子どもが集える場所が望まれている。

保護者の病気等の際や一時的に外出する場合等にファミリー・サポート・センターを利用したいと考えている人が多い。

子育てのようす

家庭における男女の協働意識は高く、とくに小さな子どもがいる家庭ほど高くなっていますが、主に子どもの世話をしているのはほとんどの家庭で母親であり、またその6~7割が就労しているのが実態です。

ほとんどの人が子育てを楽しんでいるなか、負担に感じている人も半数近くおり、また、子どもの健康や病気や自分の時間、経済的負担について悩みながら子育てをしています。

また、昨今の社会事情から、学校の行き帰り等における防犯への関心は高くなっています。

【アンケート調査からみる特徴】

母親が就労しながら、主に子どもの世話をしている家庭は、未就学調査で6割、小学生調査で7割。

家庭における男女の役割分担に対する“協働意識”は、子どもが小さい時期のほうが高い。

未就学児の2割、小学生児童の1割が朝食を欠食し、中高生の4割が朝食をひとりで食べている。

性教育は小学校高学年から、保健の先生を中心に行うべきと考える人が多い。

子どもの事故やけがに対する応急処置について学んだことがある人は半数程度。

登下校時の防犯について話をしている家庭は9割を超える。

子育ては“楽しい”と感じている人がほとんど。

子どもの健康や病気について悩んでいる人が多く、また子どもが小さいうちは「時間」がもてない、小学生に上がると「お金」がかかることで悩んでいる。

おおよそ 3 人にひとりが、感情的な言葉を言ったときなどに「虐待しているのでは」と感じている。

結婚や子どもを持つことに対してはポジティブなイメージもつ中高生は多い。

妊娠・出産時の状況と医療体制

妊娠・出産においては概ねほぼ満足しているものの、子育てネットワークづくりや妊娠・出産にかかる費用が高いことに不満を感じている人がやや多くなっています。

妊娠中のおもな相談相手は「友人」や「夫」、「両親」であり、「近所の人」と答えた人は少ない結果となっています。

一方、小児医療体制については、夜間や休日の対応に対する不安の声が多く見られ、その充実が求められています。

【アンケート調査からみる特徴】

妊娠時の相談相手は「友人」「夫」「両親」。

病院・産院については概ね満足。健診や出産にかかる費用や子育てネットワークづくりにやや不満。

かかりつけ医がいる子どもは多いが、夜間や休日の対応が不安。

(3) 地域の子育て環境

子どもの遊び場の充実を望む意見が多い一方で、最近の子どもの変化について、外で遊ぶ子どもが少なくなり、塾や習い事に通う子どもが増えたと感じる人が多くなっています。

また、外出時には子ども連れへの配慮や犯罪への被害を心配している人が多く、子育てしやすい地域環境のひとつとして対策が求められています。

【アンケート調査からみる特徴】

子どもの“雨の日の遊び場”が少ないと感じている人が多い。

外出時においては小さな子どもとの食事・トイレに配慮された場所や子どもを遊ばせる場所がないことに困っており、また犯罪にあわないか心配している。

外で遊ぶ子どもが少なくなったり、お金主義の子どもが増え、塾や習い事に通うことが一般化されてきていると感じている人が多い。

(4) 子育て支援に関する考え方・要望

子どもを育てながら働くために必要なこととして、夫の協力と職場の理解があげられており、男性も含めた働き方の見直しの必要性を表す結果となっています。

また、市に対する子育て支援の要望としては、子連れが出かけやすく楽しめる場の充実や小児医療体制の整備、経済的支援の充実があげられています。

【アンケート調査からみる特徴】

育児と仕事の両立には、とくに「夫の協力」と「職場の理解」が必要である。

市には子連れが安心して楽しく遊んだり集ったりできる“場”や、子どもが安心してかかる“医療体制の整備”、保育所や学校等の“費用負担の軽減”がとくに望まれている。